



1歳児クラス | とうきょうすくわくプログラム 実施レポート (全3回)

第2回

動きの幅を広げながら自分の力で進む経験を増やす

第2回の活動では、8月の経験を踏まえ、方向転換や屈む・潜る・段差を越えるなど、多方向の動きを取り入れた活動を行いました。

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・一本橋 ・トンネル ・フラフープ

探究活動の実践

2025年10月16日、第1回にバランスボードやジャンプ台で揺れや跳ぶ動きを楽しみ、体の揺れや力の入れ方を意識して挑戦する姿が見られた。8月の活動を踏まえて子ども達がさらに、自分の力で方向転換や屈む・潜る・段差を越えるといった動作を含む多方向の動きに挑戦できるように、一本橋やトンネルを組み合わせた活動を設定した。

活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり



・一本橋では、直線歩行だけでなく、橋の上からトンネルをくぐる動作に挑戦する。狭い足場の上でバランスを取りながら慎重にしゃがんで進み、出た後に再び一本橋の上で立つなどの流れで、多方向の動きを自然に体験していた。

・子ども達は、自分で体勢を調整しながら進むことで、達成感や「もう一回やりたい」と意欲を示す場面もあった。

・保育者は子どもがトンネルに入る前や橋に立つときに「○○ちゃん見えるかな?」「ここを通れるかな?」など期待感や興味を引き出せるような声を掛けながら安全を見守った。さらに成功体験と一緒に喜ぶことで、挑戦意欲をさらに引き出せるようにした。

・順番が生じるため、拍手や「がんばれ」などの声で友だちを応援しながら楽しんで待つ姿が見られた。また、友だちの挑戦する姿を見ることで、自分も挑戦したいという気持ちが高まり、自然な相互の関わりが生まれた。

振り返りによって得た先生の気づき

・一本橋とトンネルを組み合わせた活動を通して、子どもたちは進む・立つ・しゃがむ・くぐるといった動作を一つひとつ意識しながら、体勢を自分で調整して進もうとする姿が多く見られた。狭い足場の上で慎重にしゃがみ、トンネルを抜けた後に再び立ち上がるなど、連続した動きの中でバランスを取り直す力が育ってきていることを感じた。



・達成できた経験が「もう一回やりたい」という意欲にも繋がっており、繰り返し挑戦する中で動きが安定していく様子が見られた。保育者の声掛けや見守りによって安心して挑戦できることで、自分の力でやり遂げる達成感や喜びに繋がっていると感じた。

・順番を待つ場面では、友だちを応援したり、友だちの挑戦する姿が次の意欲に繋がっていたりするなど、自然な相互の関りが生まれていた。体を動かす経験が、身体的な面だけでなく、気持ちの共有ややりとりの広がりにも繋がっていることに気が付いた。

・これまでの活動を通して、子どもたちは自分の力で進む楽しさやバランス感覚を意識する姿が増えてきたことから、さらに組み合わせたコースへと発展させていきたい。また、行事としてからだ遊びを取り入れることで、日々のからだ遊びの中で育ってきた子どもたちの成長の過程を、保護者と一緒に振り返りながら共有したいと考えた。普段の保育では伝えきれない考えながら体を動かす姿や、挑戦する気持ちを実際に見ていただくことで、子どもたちの成長を共に喜びあえるような機会としたい。